



おお た ふし み 太田宿～伏見宿

約 7.9 km

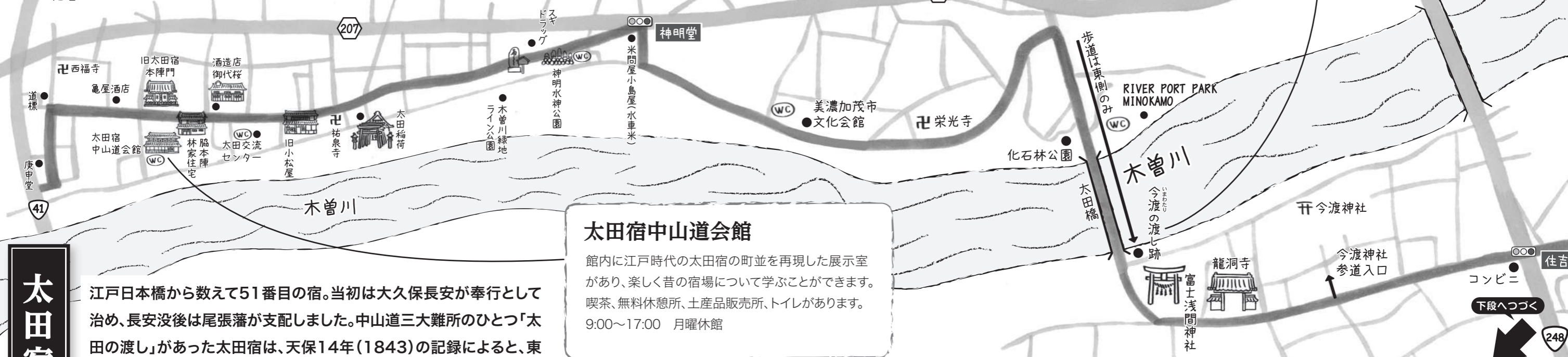
歩き旅

中山道ぎふ17宿とは？

江戸時代に整備された五街道の一つである中山道は、江戸と京都を結ぶ重要な街道で、全長135里32丁(約534km)に69の宿場が置かれました。そのうちの17宿、126.5kmが岐阜県のみ濃地方を東西に横断しており、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」に認定されました。

いまわたり 今渡の渡し跡

「木曾のかけはし」「太田の渡し」「碓氷峠」の3つが中山道の3大難所といわれていました。木曾川の急流で川底も深い太田の渡しは、祐泉寺近くだったり、太田橋近くだったり時代によって渡し場が移っていきました。江戸中期に船着場ができた今渡の渡しは、昭和2年(1927)に太田橋がかかるまで利用されたとか。ここには船着場に下りる石段が残っています。



太田宿

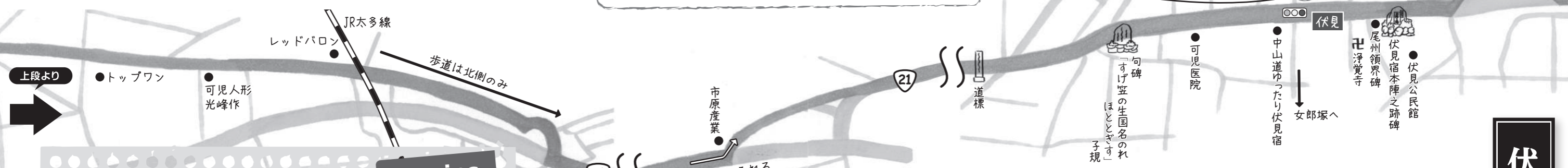
江戸日本橋から数えて51番目の宿。当初は大久保長安が奉行として治め、長安没後は尾張藩が支配しました。中山道三大難所のひとつ「太田の渡し」があった太田宿は、天保14年(1843)の記録によると、東から上町、中町、下町に分かれ、宿の長さは6町14間(約680m)。問屋場が2つ、本陣・脇本陣が1軒ずつ配置され、旅籠は20軒、戸数118軒で、人口505人が住んでいました。今なお当時の面影を残した脇本陣が現存するなど、中山道の住時の雰囲気味わえます。

太田宿中山道会館

館内に江戸時代の太田宿の町並を再現した展示室があり、楽しく昔の宿場について学ぶことができます。喫茶、無料休憩所、土産品販売所、トイレがあります。9:00～17:00 月曜休館

一本松公園

樹齢200年以上の松があり、板敷きの休憩施設・東屋やトイレがあります。伏見宿で一服するならここがおすすめ。



伏見宿

伏見宿とラクダ

伏見宿を描いた絵にはラクダが街道を歩く様子が描かれています。オランダ商人が幕府にラクダを献上しますが、幕府は受け取りを拒否。ラクダは興業師に渡り、文政7年(1824)8月、興業師が病気になる、3日間ほど伏見宿の「松屋」に滞在した記録が残っています。舶来動物は霊獣として厄払いや悪病除けになると信じられ、ラクダの絵のお札は雷除けのお守りになり、ラクダの尿は薬に、毛は瘡除けになったそうです。

本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠29軒で、宿並みは6町余り。もともとは本来の宿と宿の間をつなぐ「間の宿」でしたが、木曾川の渡し場の移動で土田宿(現可児市土田)が廃宿となったため、元禄7年(1694)に新設されました。この宿で有名なのは、当時珍しいベルシャ産のラクダが伏見宿内の旅籠「松屋」に滞在したという記録。見世物興行の道中に立ち寄ったラクダに、2日間で2,000人が集まり盛況だったとか。

Topics